

第2章 南アジア地域統合の現在と将来

畑佐 伸英

1. はじめに

本章は、南アジアにおける地域統合の現状、および将来的展望を概説することを目的としている。その上で、まずは南アジア地域協力連合（South Asian Association for Regional Cooperation；以下 SAARC）の背景と協定の内容を述べ、その有効性と課題並びに経済統合への展望を考察する。そして、最後に、この地域の統合に向けた日本の支援と役割を考察し、有効な政策提言を提起することにした。

南アジア地域に含まれる国家の定義については、世界銀行にならない、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、およびスリランカが含まれることとした¹。南アジア地域は、毎年6%という強い経済成長を達成しているものの、未だに貧困が集中している地域となっており、人口16億5600万人のうち、500万人以上の住人が1日1.25ドル以下の生活を送っている²。本地域の中で、インドは最も大きな影響力を及ぼしており、人口、国土面積、GDPにおいて優位を占めている（図表1）。インドは地理的にも優位にあり、最も海港に近くかつ各国と国境を共有している。

図表1 SAARC メンバー各国の経済指標

指標	アフガニスタン	バングラデシュ	ブータン	インド	モルディブ	ネパール	パキスタン	スリランカ
人口 (百万人)	35.32	150.50	0.74	1241.00	0.32	30.49	176.70	20.87
国土面積 (km ²)	652,230	130,170	38,390	2,973,190	300	143,350	770,880	62,710
GDP (10億USドル)	20.34	110.60	1.69	1848.00	2.05	18.88	211.10	59.17
GDP 成長率 (%)	8.2	6.1	7.4	9.6	5.7	4.8	4.1	8.0
一人当たり GDP (USドル)	576	735	2,288	1,489	6,404	619	1,195	2,835

注：GDP 成長率は2010年、それ以外は2011年のデータである。

出所：世界銀行データ指標 <<http://data.worldbank.org/indicator>>

全世界の人口の5分の1以上が南アジアに住んでいることに伴い、地域統合は莫大な利益をもたらすと予想される。地域統合によって、人的交流と貿易が活発化され経済が成長し、社会の安定性が増幅される可能性がある。地域統合は貧困の緩和、生活水準の向上を促進するだけでなく、南アジアにおける政治的、安全保障上の環境をも改善させるであろう。経済協力の促進は、紛争の削減と不均衡の是正、相互発展に大きく寄与することができる。地域協力機構の存在は、地域統合の取り組みを支援するために非常に重要であり、こうした組織による定期的な協議を通じて、南アジア各国間での協力関係の促進と友好的な相互依存関係が構築されるのである³。

2. SAARC—南アジア地域協力連合 (South Asian Association of Regional Cooperation)

南アジア地域協力連合とは、地域統合およびメンバー国家間の協力促進を追求している、南アジア内における地域組織である。SAARC はバングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの7カ国の国家首脳、及び政府により創設された正式な憲章の合意に基づき、1985年12月に設立された。2007年にニューデリーで行われた年次総会において、アフガニスタンが8番目のメンバーとしてSAARCに加わった。事務局はネパールのカトマンズに設置されている。

歴史的背景

南アジア地域はかつては比較的統一の機運が保たれていたが、1947年のインド独立、また、その後の周辺国の分離独立から劇的に変化した。1948年の域内貿易は貿易全体の19%を占めていたが、1967年までにわずか2%にまで減少している⁴。地域的な緊張は、インドとその他南アジア隣国との間で存在しており、分割以来、根深いイデオロギーの不一致がインドとパキスタンの間にある。パキスタン国内ではイスラム教徒が多くを占めており、一方でインド人の約85%はヒンズー教徒である。三度の戦争を経験したインドとパキスタンの間では、未だ解決されていないカシミール問題もあり、現在も突発的に戦闘が行われており、敵対的な関係は解消されないままである。

このような紛争の絶えない南アジアにおける地域統合の必要性は、長い間認識されていた。第二次世界大戦後、1980年に当時のジアウル・ラーマン (Ziaur Rahman) バングラデシュ大統領による提唱をはじめとして、様々な国際会議においても南アジア地域統合の必要性は議論されてきた⁵。当時の政治的、経済的状況からも、南アジア地域協力は紛争解決と経済発展に向けた重要な選択肢となっていた。既存の域内の不安定さに加えて、1979年にソ連がアフガニスタンに侵攻したことで、南アジア域内の安全保障に対する関心が高ま

り、域内の協調的な動きが活発化されると共に、対話の促進と域内関係の向上が図られることとなった⁶。1971年のインド・パキスタン戦争以降は大きな地域紛争はほとんど起こらず、SAARCへと繋がる議論を醸成させる環境が整いつつあった⁷。1979年のオイルショック後の国際収支バランスの悪化や世界経済の見通しの悪さと失業の増加によって台頭した保護主義に、本地域が直面していたという経済的要因もまた、域内統合への道筋を拓く糧となった⁸。

SAARC 憲章

SAARC 憲章の目的は、メンバー国の経済、社会、文化の発展を促進し、それにより南アジア地域の人々の生活の質と福祉を向上させることである。憲章では、自律性、相互信頼、共同作業および協力的なアプローチを通じてこれらの目的の達成を追求することを謳っている。SAARC の目的や地域協力に向けたプロセスは、当地域の政治および安全保障上の歴史と環境を鑑みて、政治的な係争がある部分を敢えて避けた形で構成されている⁹。

憲章の条項1に挙げられている SAARC の目的は以下の通りである。

- a) 南アジア諸国の国民の福祉増進と生活の質的向上を図る。
- b) 地域における経済成長、社会的進歩、文化の発展を促進し、すべての人に尊厳ある生活と自己実現を得る機会を提供する。
- c) 南アジア諸国の集団的自立を促進し強化する。
- d) 諸問題に関して相互に信頼と理解、認識を深めることに貢献する。
- e) 社会、経済、文化、科学技術の分野における積極的な協力と相互支援を促進する。
- f) 他の発展途上国との協力を強化する。
- g) 共通の利益を有する問題については、国際会議等においてメンバー国内の結束を強化する。
- h) 類似する目標と目的を持つ他の国際機関、地域協力機関と協力する。

SAARC 協定

SAARC 憲章の目的の達成と地域の統合、協力と連携を深める意図で、様々な協定やスキームが SAARC メンバー諸国により採択された。創設以来、SAARC 協定、機構、およびその機能は継続的に変化し発展してきている¹⁰。SAARC における2つの重要な協定は、南アジア特惠貿易協定(South Asian Preferential Trading Arrangement、以下 SAPTA)と南アジア自由貿易圏(South Asian Free Trade Area、以下 SAFTA)である。

SAPTA は1993年に域内貿易と経済協力の促進のために合意された。SAARC メンバー諸

国間で特恵的な権利を取り交わすことで、わずかな域内貿易を増幅させることをその第一の目的としていた。SAPTA の利益が全てのメンバー諸国に平等に行き渡るよう、その指針の中には互惠主義や相互利益という概念が含まれていた。公正な貿易の自由化の目標は、詳細にわたる交渉と、定期的な改良と見直しを通じて、一步ずつ詰められていった。全ての物品と商品が含まれると共に、LDCs (Least Developed Countries) の認定の必要性も認められ、限定的な特恵措置についても合意された¹¹。また関税のみならずその他の非関税措置についても取り扱っている。

1995 年末に運用を開始した SAPTA は、2006 年 SAFTA に取って代わられた。SAFTA は 2004 年イスラマバードでの首脳会議で制定された貿易の拡大と経済協力を目指した協定である。SAPTA の後継の貿易協定として、SAARC メンバー諸国間での自由貿易範囲の拡大を目指して 2006 年に発効された。その目的は、国境を越える貿易に対する関税の撤廃と、自由貿易を通して公正な競争環境と共通の利益を生み出す事である。メンバー諸国間での物品の自由な動きは SAFTA の原則であり、互惠主義や相互利益を追求するとともに後発開発途上国への配慮もなされている。漸進的なルールの調和もさらに一步踏み込んだ原則として盛り込まれている。

SAFTA では、貿易自由化プログラム (TLP)、原産地規則、制度調整、紛争解決の手段、および緊急輸入制限措置に関する規定も創設された。後発開発途上国と非後発開発途上国では扱いに違いがあるが、TLP では、工程表や特定品目の関税削減を規定することで、貿易数量制限や関税の大部分を撤廃することを提案している。一方で TLP はセンシティブ品目リストに含まれる物品の関税削減については例外を容認している。これらのリストに含まれる品目の数を徐々に少なくしていくことを目指してはいるものの、センシティブ品目の削減実施については強制できないことになっている。非関税障壁は見直しのため毎年報告され、撤廃方法については専門家委員会による助言を受けることになっている。基準認証、税関措置や人の移動、通信や輸送施設なども含めた広い範囲での貿易促進措置は、SAFTA でも同様に検討されたが、安全保障上の事項については SAFTA の規定から排除されている。SAFTA 閣僚理事会が SAFTA 内で最も強い権限を持っており、最低年一度は総会が開かれている。

2005 年に締結された関税に関する協定 (SAARC Agreement on Mutual Administrative Assistance in Customs Matters) は、関税法の適切な運用と適用のために、メンバー諸国の税関が情報の共有と運営上の協力をしていく取り決めであり、域内貿易の活性化を通して SAFTA を促進していくことを重要な目的としている。また同じ 2005 年には、二重課税の回避に関する協定 (SAARC Limited Multilateral Agreement on Avoidance of Double Taxation

and Mutual Administrative Assistance in Tax Matters) や SAARC 調停委員会の設立に関する協定 (Agreement for Establishment of SAARC Arbitration Council) も締結された。後者は、SAARC メンバー諸国の域内投資促進を目的に創設された紛争解決のためのフォーラムであり、SAARC 調停委員会は、商取引や投資に関わる紛争仲裁のための枠組みや施策を整備、創設する権限を有している。

2007 年には SAARC 食料バンク設立に関する協定 (Agreement on Establishing the SAARC Food Bank) が締結された。この協定により、地域の食糧安全保障を高め、起こりうる食料不足と戦うため、SAARC 食料バンク評議会と地域的な食料バンクが創設された。食糧安全保障に関する基金を設立することや、地域の食糧安全保障に対する取り組みを支援することも重要な役割の 1 つである。メンバー諸国は備蓄する小麦や米の量を指定され、食糧危機の際には備蓄を機能的に取り崩す仕組みが決定される。

2008 年には南アジア開発基金 (SDF) 憲章 (Charter of the SAARC Development Fund) が結ばれた。SDF 設立の主な狙いは、SAARC 憲章の目的達成に必要なプロジェクトやプログラムのための財政基盤を確立することで、メンバー諸国により出資された資金をもとに、貸出や補助が行われる。社会、経済またはインフラの分野から、それぞれ各国の事情に応じた適切なプロジェクトが見極められ、承認、出資されることになる。社会分野のプロジェクトは、貧困緩和、健康、教育と人的資源開発を含む、人材と福祉に焦点が当てられ、経済分野のプロジェクトでは、貿易と産業の発展、農業、サービス部門、科学技術を含む分野でインフラを伴わない事業が対象となる。インフラ分野のプロジェクトは、エネルギー、交通、通信、環境、観光などにターゲットを絞っている。

2008 年に結ばれた南アジア地域標準機構 (SARSO) 設立に関する協定 (Agreement on the Establishment of South Asian Regional Standards Organisation) により、SARSO が設立された。SARSO の事務局は、SAARC メンバー諸国の各国国家標準化機構のトップで構成される理事会と共に、バングラデシュのダッカに置かれている。当機構の目的は、域内で生産される物品の国家基準を調和、発展、啓蒙させることで、世界市場へのアクセスを改善させ、貿易に係る技術的障壁を削減させることにある。また、域内の情報交換や能力開発を促進したり、国際標準の適切な採択について助言したり、国際標準化機構に対する域内の関心を高める活動なども行っている。

2010 年に締結されたサービス貿易に関する SAARC 協定 (SAARC Agreement on Trade in Services, SATIS) は、サービス分野における域内貿易の自由化と促進を目指している。SAFTA には含まれていないサービス貿易は、経済開発と成長の重要な要素であり、SATIS によってサービス分野における域内貿易を増加させることができれば、計り知れないほど大きな

潜在的な経済利益を獲得することも可能である。

1992年に開始した SAARC ビザ免除計画 (SAARC Visa Exemption Scheme) は、域内の人々の国境を越える移動と交流を増加させる狙いがあり、今日まで拡大し続けている。この計画には高官や公務員、ビジネスマンなどの種別が含まれており、最近では SAARC 地域をビザフリーにするという最終的な目標に向けて、更なる人の移動の自由化が提起されている¹²。

3. SAARC の評価

SAARC が南アジア地域統合の促進に果たす役割について、その効果は限定的であると主張する論者は決して少なくない¹³、¹⁴、¹⁵。SAARC 創設から約四半世紀が経過し、多くの協定が結ばれ進むべき方向性や目標が設定されてはいるものの、具体的な進展は僅かしか見られない。2007年の世界銀行報告書では、「南アジアは世界で最も統合が進んでいない」と述べられている¹⁶。

欧州連合 (EU) や、東南アジア諸国連合 (ASEAN) など他の地域協力機構と比較して、SAARC の実質的な業績は限られているが¹⁷、SAARC の出発点を鑑みると、SAARC を ASEAN などの他の地域経済機構と比較することは適切でないという見方もある。SAARC は大変に難しい状況で設立されており、地域情勢や政治的な状況において、その他の類似する地域組織とは基本的に異なる。これらの違いには以下の視点が含まれると考えられる。

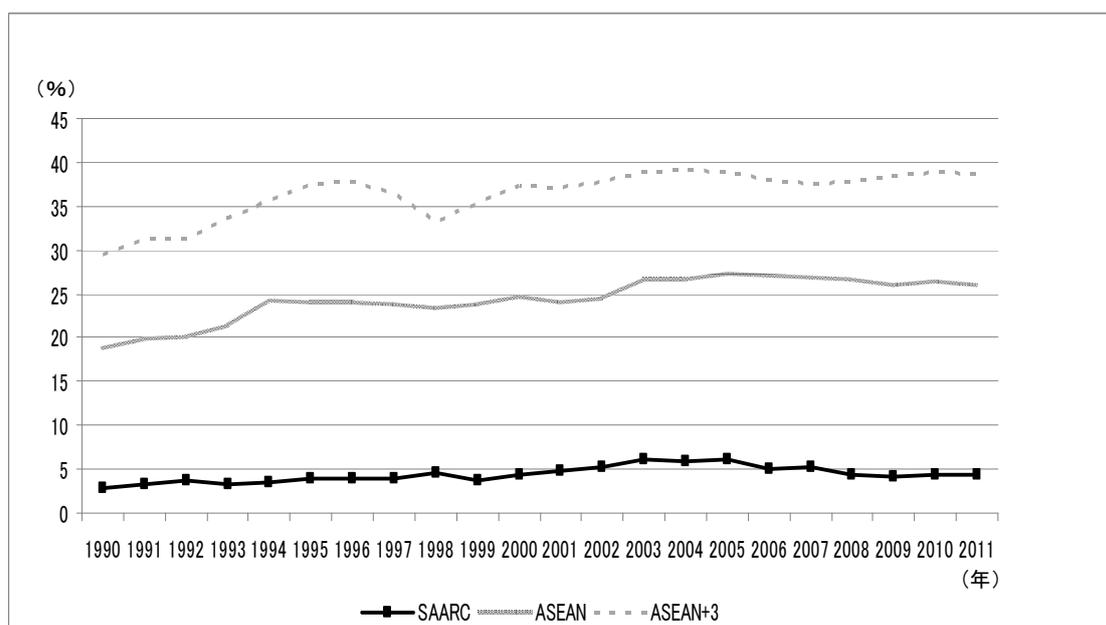
- 域内の経済発展のレベルが異なること、そして、GDP、人口、軍事力、国際的な影響力、地理的利便性などにおいて、南アジアの他国と比較してインドが非常に大きな優位を保っていること。これらの要素によって域内には多大な不均衡が存在しており、このことは SAARC 特有の現象と言ってよい¹⁸。
- 当地域には紛争の歴史が深く現在も続いていること。
- 東南アジア諸国連合地域フォーラム (ARF) のように、首脳会談とは別に重要な外交対話を進めるための実務的な地域外交フォーラムが、SAARC 内に存在していないこと¹⁹。

SAARC の大部分の業績は漠然としたものではあるが、実在しているのは確かである。SAARC は議論を深めるための価値的で戦略的なフォーラムを提供してきたし、域内の経済関係の改善にも貢献してきた。また、南アジア地域の各首脳に、問題を協議し相互理解を深めるための対話の機会を提供してきた²⁰。2008年には、初の南アジア経済首脳会議が開かれ、SAFTA についての情報共有とより進んだ対話を行う機会を得て、地域経済統合の今後の発展の可能性についてより前向きな姿勢を示すことができた²¹。

1995年の開始以来10年間、SAPTAのもとでは限られた範囲の物品のみが対象となって

いたため、南アジアの域内貿易を十分に増加させることはできなかった²²。貿易自由化交渉において、関税譲許は物品ごとに取り交わされ、1998年11月の第3回交渉後には、6000品目中およそ4700品目で合意に達した。しかし、関税譲許品目の多くは域内貿易との関連性はなく、また、SAPTAの焦点は、取り交わされた品目の数であり、自由化される貿易量は考慮されていない²³。

図表2 地域内貿易比率



出所：IMF Directions of Trade Statistics.

2006年に施行されたSAFTAも、その本来の目標である域内貿易レベルの向上という点において、具体的な成果はあまり出ていない。図表2によると、2011年におけるSAARC地域での域内貿易比率は南アジア貿易全体のほんの4.3%であり、SAFTA開始以来わずかに減少したにすぎない。一方で、2011年のASEANの域内貿易は、25.9%とより高い数値を示しており、ASEAN自由貿易圏の相対的な成功を反映していると言えよう²⁴。

南アジア域内の関税はある程度削減されているにもかかわらず、それが域内貿易の比率の増加へと至ってはいない。そのことは、貿易の非関税障壁こそが、地域経済統合にとって深刻な課題となっていることを示唆している²⁵。これらの障壁には以下のような、不十分な貿易円滑化措置²⁶とインフラの欠如があると考えられる。

- 税関手続きの時間が長く非効率的である²⁷、²⁸。
- 受入可能な車両に関する基準が国境ごとに異なるといったような地域的な連結性が欠如

している²⁹。

- 倉庫や検査施設の不足、道路の未整備、国境地点における駐車場の欠如など、物理的なインフラが不足している。
- 査証発給が制限的であり、取得が難しい³⁰。

SAFTA の狙いは関税の大幅な削減であり、撤廃ではない。そのことから、SAFTA は自由貿易圏ではなく、特惠関税協定だと批判的な論評をする人もいる³¹。いずれにしても、2006年に施行されたSAFTAでは、10年間で関税を削減するというスケジュールを掲げていることから³²、本協定の全体的な有効性について、結論的な評価を下すことは時期尚早と言えるかも知れない。

SAARC 査証免除計画は、国境を越えた移動を促進するため1988年に提案され1992年から開始された。一定の要件を満たした高官や公務員は、1カ月間有効の制限無し査証を取得し、限定された都市を訪問することが可能となっている。本計画によって交流が促進されたことは確かであるが、さらに民間セクターの統合を深め南アジアでのビジネス環境の改善を図っていくには、この計画をさらに広げていく必要がある³³。

本スキームの対象となるカテゴリーも増え、現在ビザは通常1年間有効であるが³⁴、依然として査証免除計画の権利はかなりのエリート層にのみ与えられており、大部分のビジネスマンは排除されたままである。各SAARCメンバー諸国に割り当てられる査証免除の権利はわずか100ほどであり、それが大きな障害となっている。その枠を超えて権利を与えられていない専門家等にとっては、結局のところ待機者リストに掲載され査証の取得は大幅に遅れてしまう。査証免除期間や承認都市が限られていることで、域内のビジネス環境の改善にはあまり貢献していないという指摘もある³⁵。

最近の前向きな動きとしては、パキスタンとインド間での制限の緩和と査証の種類を追加に関して、合意がなされたことである³⁶。査証制限が存在することで、各国間の移動やビジネスの機会は抑制されてしまう。査証免除の取得可能性が拡大され、適用可能な種類の数が増えれば、新たなビジネスチャンスやパートナーシップ開拓に向けた調査並びにネットワークの拡大等を見込んだ、クロスボーダーな商業活動が活性化され、南アジア内での商業的繋がりは大きく拡大するであろう³⁷。

4. SAARC の課題

今日までSAARCの功績はかなり限定的であったと言えよう。南アジアの地域関係には、協力よりもむしろ紛争の歴史が横たわっている。域内には様々な紛争の火種があり、それらには歴史的な社会、宗教問題に起因した緊張、領土紛争、インドの優位性、地政学的な

要因、エネルギーや水などの資源不足、などが含まれている。極度の貧困と不平等が蔓延しており、それが不安定な政治情勢をさらに悪化させている。

SAARC メンバー諸国内での二国間紛争や不協和音によって、地域の統合という目標は色あせ、その有効性には影が潜み、相互不信が宿ってしまうのである³⁸。これにより、「SAARC の枠組みでの具体的協力に向けた動きに対する躓き石」³⁹が形成されることとなる。地域的な緊張以外にも、SAARC の機能や権限に関する課題や、貿易投資における障壁など、SAARC の成功を妨げる多くの要因を挙げることができる。

地域内におけるインドの優位性

南アジア地域でのインドの支配的な地位は、紛争を勃発させるような勢力不均衡を形成していると言える⁴⁰。インドは南アジア地域の、面積の 64%、人口の 75%、および GDP の 81%を占めている⁴¹。本地域ではインドが中心に位置しており、その他のメンバー諸国間では国境を共有していない（アフガニスタンとパキスタンはこの限りではない）。そのため、インドは国境貿易の経路を占有することになり、地域貿易にはインドの協力を仰がなくてはならない⁴²。

このような勢力的な不均衡に起因する様々な懸念は、SAARC メンバー諸国内で共有されつつある。インド自身もそのような懸念には警戒しており、他の南アジア諸国がまとまって域内の関心事項についてインドに敵対してくることを憂慮している⁴³。SAARC メンバー内の小さな国々は、インドの力強さが貿易拡大に向けた大きな可能性をもたらしてくれると認識しつつも、不均衡な関係に対しては決して前向きな態度を示していない⁴⁴。過去のインドによる隣国に対する内政干渉は覇権的であると見られており、このような昔のイメージが、現在も大きく影響していると考えられる⁴⁵、⁴⁶。

インド・パキスタン関係

SAARC の成功を阻む最大の障壁は、恐らく SAARC 内で最も大きい2つのメンバー国である、インドとパキスタンの関係であろう。両国はともに核保有国であり、長い国境を共有し、その一部は嚴重な軍の警戒下にある⁴⁷。両国は 1947 年に独立を獲得して以来、三度の戦争を経験しており、頻発する紛争を繰り返してきた最強のライバルと言ってよい。根本的な要因はカシミール地方における未解決の領土紛争であり、本地域には 1949 年から今日まで停戦ラインを監視する国連の部隊が駐留している⁴⁸。

カシミール地方での長期にわたる係争は、SAARC の発展を阻む深刻な問題である⁴⁹。事実パキスタンは当初、西アジアとの関係改善に向けた動きが妨げられることや、インドは

SAARC を地域覇権の確立のために利用するのではという懸念を抱き、SAARC 参加には前向きではなかった⁵⁰。

エネルギーと水資源

急速にエネルギー需要が伸びているにもかかわらず供給が不足していることで、南アジアの貧困削減と経済成長には大きな制約が課せられている⁵¹。そして、それはまた、今後エネルギー危機をもたらす恐れも示唆していると言える⁵²。堅調な経済成長と共に急速に発展、増加している都市の人口により、前例がないような急激なエネルギー需要の上昇がもたらされている。エネルギー獲得の可否が、更なる成長への障壁となる。世界銀行の試算では、約7億の南アジアの人々が電気へのアクセスを欠き⁵³、この地域で貧困状態にある人の大多数が、未だにバイオマスを主要燃料として利用している⁵⁴。

エネルギー不足はそれぞれ特有な地域の事情に起因しており、インフラ投資の欠如、制度的な欠陥、国内資源の不足、国内の資源生産に関する問題、エネルギー価格に対する補助金などがその要因として挙げられる⁵⁵、⁵⁶。さらに、エネルギー供給の40%を超える量が盗用されており、これは公共部門の電力管理の水準の低さに起因するものである⁵⁷。

水問題は長い間、南アジアで議論されてきた課題であり、相互不信と争いの要因でもあった⁵⁸。通常水資源は国境を越えて動いていくことから、時に国際的な緊張をもたらす。水不足とインドが地理的に優位であることから、特にインドと隣国のパキスタン並びにバングラデシュの間で、国境を越えて流れる水を巡る争いが勃発している⁵⁹。

約7億人の人々がインダス川、ガンジス川、ブラマプトラ川から水の供給を受けており⁶⁰、南アジアの一人当たりの水資源は世界で最も少ない量となっている⁶¹。降雨量が目まぐるしく変化し時に集中することにより、この地域には洪水や干ばつなどの災害が起りやすく、何百万人もの人々が移転を余儀なくされている⁶²。

パキスタンは、年平均降雨量がわずか250ミリと決定的に不足しており、世界で最も水資源に苦しむ国の1つである。この問題は、水資源の需要の急増によって際立つようになってきており、人口増加と水質汚染の悪化と共にさらに深刻化すると予想されている⁶³。パキスタンでは、毎年約25万人の子どもたちが水に関する病気で命を落としている。地下水は飲料水として多くの国民の間で利用されており、過度に採取されることで、塩分濃度が高まっていく⁶⁴。

パキスタンにとって主要な真水の源泉は、係争地のカシミール地方を流れるインダス川であり、パキスタンの農業に必要な水の90%をそこから得ている⁶⁵。パキスタン上流の川をせき止めるというインドの水力発電計画は、川の流れに悪影響を与えると懸念されてお

り、二国間の緊張の原因となっている⁶⁶。

水は生活必需品であるだけでなく、経済活動にとっても必要最低限の資源である。本地域にとって重要な繊維産業や農業では水を多く利用する⁶⁷。水の需要が供給限度を超えると、直接費用が上昇し、効率性が下がり、生産が限定されることで、ビジネスコストは上昇に転じる⁶⁸。水資源の問題は経済発展を阻害し、今後の地域の安定を深刻に脅かすことにもなる⁶⁹。

SAARC の機能と権限

SAARC は緊張した政治的情勢の中で成立した。その結果、憲章では、意思決定については満場一致の合意を必要とすることと、SAARC の会議では二国間の紛争事項は扱わないことが示されている。これらの規定が、域内紛争を解決、仲裁する機能を SAARC から奪い取っていると見ることもできる⁷⁰。

第 16 回 SAARC 閣僚会談において閣僚たち自身が述べたように、SAARC の目的を南アジアの人々の真の利益とするためには、より行動に重点を置いたアプローチが必要である。宣言の実施と手段を実行に移すためには、確固とした時間的な枠組みが必要である⁷¹。

SAARC 活動の多くは膨大な範囲と分野に及び、また、複雑なまでに多くの委員会と組織が存在しており、これらの活動や運営を有効に行うには資源が希薄すぎるのが指摘されている⁷²。そのことから、SAARC は経済協力や域内貿易の促進に、資源をより集中させていくことが、組織の利益確保のためには重要であろう⁷³。

貿易投資に関する障壁

2007 年の世界銀行報告書は、南アジアは輸出関税を大幅に削減したものの、世界で最も貿易コストが高い地域であると述べている⁷⁴。最近のインドによる関税障壁の削減や、パキスタンがインドに対して最恵国待遇を与える決定をしたことは、SAARC の貿易障害をさらに削減していく上で重要な動きである。しかしながら、SAFTA が有効に機能しないのは、関税譲許から除外された広範囲にわたるセンシティブ品目であり、これらは域内輸出貿易の 53%を占めている⁷⁵。センシティブ品目の削減を目指した定期的なレビューは貿易自由化プログラムの一環として行われてはいるが、拘束義務がないため、それは各国の判断に委ねられた単なる選択の 1 つに過ぎない⁷⁶。

非関税障壁は貿易を抑制し、商業活動を妨げる。このような障壁には、輸送インフラ設備の不整備と不足、そして、査証に絡む問題が含まれる⁷⁷。地域内の貿易円滑化に向けた環境は未だ整備されていないのが現状である。特に海に面していない国々との貿易には、高い物流コストがかかる。非効率的な港湾や、不透明で複雑な税関手続きなどは、貿易コ

ストの上昇に貢献する重要な要素となっている⁷⁸。非関税障壁と高い物流コストが商業投資のインセンティブを減退させ、投資はより快適なビジネス環境を伴う他国へとシフトしていく。

当初 SAFTA は、サービス貿易や投資など、より広範囲な経済協力を謳う事項をカバーしていなかった⁷⁹。The South Asian Trade and Investment Network (SATIN) は、域内の貿易、投資、ビジネス交流を促進する目的で設立された⁸⁰。しかしながら、南アジアにおける地域統合のプロセスにおいて、未だ投資の問題は組み入れられておらず、海外直接投資 (FDI) は制限されたままである。特定の部門への投資は認められておらず、投資の規模や形態に関する制限を含む様々な要求が課されている⁸¹。このような域内統合の未熟さと相まって、域内における海外直接投資および域外からの直接投資の流入は、潜在レベル以下に留まっている⁸²。

南アジアのサービス部門は巨大であり、地域経済にとって極めて重要である。インドだけでも、サービス産業は多くの雇用と所得を生み出している。サービス部門の貿易促進には、通信と電力の充足と、高いレベルの技術を提供するために必要な十分な教育が欠かせない⁸³。SAARC の発足当初から、通信における協力は注視すべき分野であると認識されてきた⁸⁴。ようやく最近になって、サービス貿易についての SAARC 協定が 2010 年に調印された際に、サービスは地域統合のプロセスに含まれることとなった。

5. 南アジアの地域統合の今後

南アジアが真に統合された地域となるためには、地域的緊張の解決に向けた、継続的で建設的そして協力的な努力が必要である⁸⁵。SAARC メンバー諸国間の不信感を緩和させていくことが、地域統合を促進していくためには大変に重要である。パキスタンがインドに最恵国待遇を与える決定をしたことは、良好な貿易関係構築に向けた重要な一歩であったと言ってよい⁸⁶。

地域の緊張と不信のもととなっている複雑かつ歴史的な要因を取り除いていくには、重要な関係国や多くの利害関係者を交えて、多面的な問題に関与していかなければならず、極めて困難で長期にわたるプロセスを経なければならない。紛争と緊張に直接関与することは政治的にも難しいため、貿易を阻害し、地域統合を阻み、摩擦を生みだしている現実的な問題を取り扱うことのほうが、地域支援のためには今後の可能性も含めて意義ある選択肢と言える。

南アジアにおけるインド特有のステータスは、協力の促進と相互不信の緩和という点において、リーダーシップを発揮するには好都合と言って良いだろう。南アジア内でのその

地位を利用して、インド自身の地域的、国際的な野心を実現していくこともできるし、他のメンバー諸国の国内成長と発展を促す機会を提供することも可能である。このことが全ての SAARC メンバー諸国に真に理解され受け入れられれば、地域統合を大きく支援することに繋がるだろう⁸⁷。

水とエネルギーの確保は主要な現実的課題であり、地域の発展にとっても極めて重要である。人口成長と貧困レベルを鑑みると、今後の南アジアの安定と地域統合は、これら 2 つの根本的な課題を改善していくことにかかっている⁸⁸。今後の南アジアの平和と安定、そして、経済成長と地域統合は、水問題にかかっていると警告する知識人は多い^{89、90、91}。気候変動によって季節ごとの水量が変化しており、また、海面が上昇してきていることで、水問題はさらに深刻になってきている。水を必要とする農業にとっては深刻な意味をもち、また、土地の侵食や壊滅的な洪水など既に地域が直面している自然災害も挙げられる。海面の上昇は飲料水の確保に悪影響を与え、移住を余儀なくされる人たちが出てくることも考えられる⁹²。人口成長と都市化の進行で、既に不十分な水の供給体制に、更なる負荷のしかかってくるだろう⁹³。

インドは、一人当たりの年間水供給量が 1545 立方メートルであり、既に水不足を抱えている国である（水の使用可能量が一人当たり年間 1700 立方メートル以下である場合、水不足が存在していると定義される）^{94、95}。気候変動と 2050 年までに 16 億まで増えると推計されている人口により、水不足はさらに悪化する見込みである。パキスタンは既に深刻な水不足を抱えており、今後も状況は悪化していくと見られる。人口の増加、資源の枯渇、供給の不足という問題以外にも、パキスタンでは国内の 98% の真水を農業目的で使用していることから、一人当たりの食料生産量が徐々に不足していくという課題も抱えている⁹⁶。水不足が進行するにつれ、人口が過密している河川の流域や、国境沿いのそれらの係争地域では、摩擦が起こりやすくなるだろう。

同じ水資源に頼っていることと地域統合が進んでいないことを考えると、地域の水資源管理に関連して緊急に行動を起こす必要があると考えられる。水資源管理については争いのない改善策を見いだすことも可能である。このことは、域内の緊張を緩和させ、南アジアの発展を促し、経済成長と統合を促進させることにも貢献するであろう。

SAFTA 共通の目的を達成していくためには、貿易円滑化策の調整と物流のさらなる効率化が必要である。輸送インフラを含む国家間の物質的な結合を改善していくことで、地域統合の展望は開けていく。物理的な統合を高めていくことで、メンバー国間での貿易や地域の安定性は増し、相互依存関係も深まっていく。特に、後れを取っている国境地域での繋がりを強め、市場へのアクセスを保つことが必要である。陸上輸送コストの高さ、国境

を越えるポイントの不足、インフラの未整備が非効率を引き起こし、域内貿易を阻害している。貿易を促進する政策と連携させながら、輸送システムと関連施設を地域で統一した形で改善していけば、国内外の両方で市場へのアクセスが容易になり、内陸で地理的にも不利な南アジア地域を活性化させることが可能であろう⁹⁷。これらの分野で改善がみられれば、不平等の緩和と地域内外での摩擦の軽減にも資すると考えられる。

南アジア諸国は繊維・衣類産業で比較優位がある。繊維産業は重要な製造業であり外貨獲得源にもなっている。また、直接、間接ともに重要な地域の雇用を支えている。しかし、本産業における域内の統合は進んでいない⁹⁸。南アジアでは、その中間財を主に地域内からではなく、東アジアの供給者を通して得ている。南アジア諸国では類似した製品を生産しているものの、わずかではあるが補完的なバリエーションが存在している。よりよい貿易円滑化措置が実施されれば、地域間での調達の促進は可能であろう。繊維と織物の純輸入国であるバングラデシュとスリランカは、インドやパキスタン等の純輸出国から、財を調達することも可能である。こうした貿易を増加させ、地域統合を推進していくことも有用である⁹⁹。

南アジアには、1996年にSAARCメンバー間（バングラデシュ、ブータン、インド、ネパール）での経済協力を促進するために創設された、The South Asian Growth Quadrangle（SAGQ）という枠組みも存在している¹⁰⁰。SAGQでは、国際競争において比較優位を得るために、サブリージョンにおける地理上の近接性と文化的な類似性を活用していくことを進めており、市場の統合よりもむしろ、多様な分野での協力を基本としたプロジェクトに焦点をおいている。このグループはSAARCの枠外で活動することで、インド・パキスタン間の政治的な緊張を排除している¹⁰¹。The South Asia Subregional Economic Cooperation（SASEC）プログラムは、SAGQの重要な新しい取組みであり、アジア開発銀行（ADB）からの支援を受けて行われている。

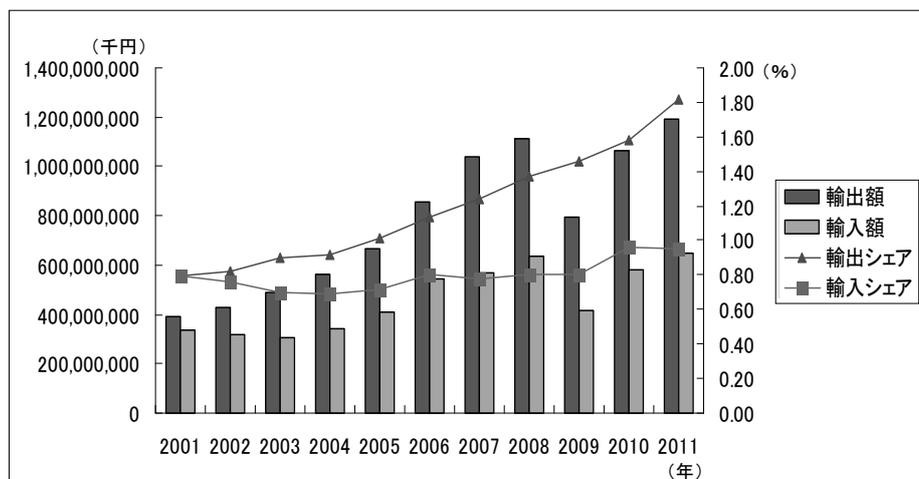
さらに、SAARCメンバー5カ国を含む、The Bay of Bengal Initiative for Multi-Sectoral Technical and Economic Cooperation（BIMSTEC）という、サブリージョナルなグループもある。1997年にバングラデシュ・スリランカ・タイ経済協力（BIST-EC）として設立され、後にミャンマー、ブータン、ネパールを含めて、現在の名称へと変更された。このグループの注目すべき特色は、南アジアと南東アジアを繋げている点である。BIMSTECは2004年、物品とサービス貿易、投資、経済協力を含んだ自由貿易協定に調印した¹⁰²。BIMSTECには、インド・パキスタン間に存在する政治的な摩擦がないため、地域統合実現の可能性はより高いと指摘する声も聞かれる¹⁰³。こうした地域協力に向けた多角的な取組みを進めることで、他のアジア地域のグループよりも早く統合を実現させることができるかもしれない¹⁰⁴。

6. 南アジア地域統合と日本の役割

南アジアと協力的な関係を構築していくことと本地域の安定を確保していくことは、日本の国益にとっても重要である¹⁰⁵。南アジアは、歴史上日本と良好な関係を持ち、固有の価値も共有している¹⁰⁶。急成長を成し遂げ巨大な経済的潜在能力を有している本地域の重要性は、国際的にも高まっている。南アジアは、日本と中東間の物資輸送にとっては地理的に重要であり、戦略的な要所と言える¹⁰⁷。湾岸地域からの日本への石油の輸入は、インド洋を通る海上交通路に依存している¹⁰⁸。

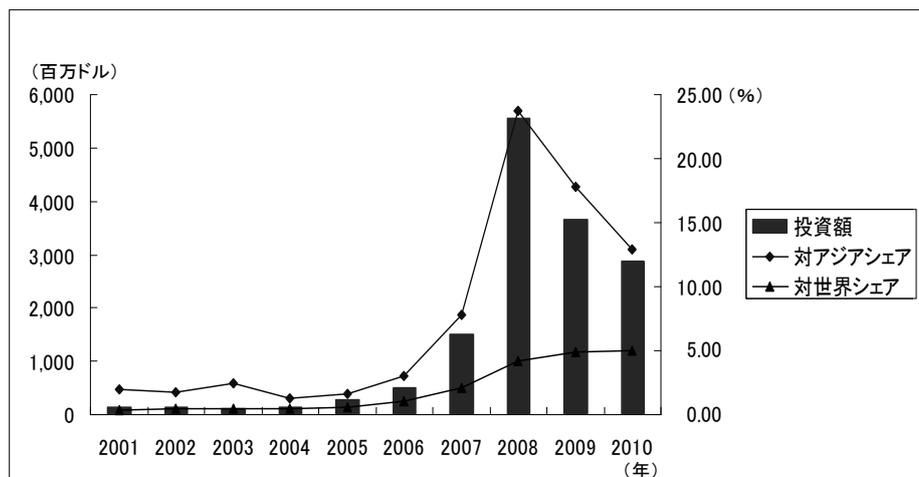
特に世界一巨大な民主主義国家であるインドの発展は、地域にとっては重要な魅力となりつつある。図表3は日本の対インド貿易の推移を示したグラフである。今世紀に入り特にインドへの輸出が堅調に増加しているのがわかる。輸出シェアも同様に増えてきていることから、相対的に日本にとってインド需要の重要性が増していることが窺える。また、投資についても2000年半ばからインドへの額が急増しており、それ以降日本の対外直接投資におけるインドのシェアは着実に増加している（図表4）。

図表3 日本の対インド貿易



出所：財務省貿易統計。

図表4 日本の対インド投資



出所：JETRO <http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/fdi/data/country1_cy11.xls>

国際協力銀行 (JBIC) の調査によると、現在、日本の製造業界による長期投資において、最も有望な投資先はインドである¹⁰⁹。中期的には、インドは中国に続き二番目に有望なビジネス上魅力的な国であり、調査に回答した会社の47%がインドのインフラの未発達を最大の課題としてあげている。インドで活動している日系企業は2006-07年の約100社から、2009-10年には300社へと3倍に増えている¹¹⁰。

この地域の情勢は、国際社会にとってもまた重要である。南アジアの安全保障、安定性、地域内でのテロ、インドとパキスタンの核武装は、「日本を含む国際社会にとって大きな懸念事項」である¹¹¹。

1993年、SAARC同盟は当地域の発展と安定を促進する可能性を有していることから、日本政府によって、日本・SAARC特別基金が創設された。日本・SAARC特別基金はSAARCにとって重要な外部資金源であり、日本は2005年11月にSAARCのオブザーバーとして認定された。

2007年、日本の麻生太郎内閣総理大臣は、SAARCへの支持を表明し、特定の開発分野への支援に乗り出した。支援は原則として政府開発援助 (ODA) による円借款と無償資金協力という形で行われている。2011年11月の日本の外務省による報告では、迅速に始められた日本の財政支援は、2012年までに総額150億米ドルにのぼる¹¹²。支援は次の3つの分野において行われている。

1. 南アジアの持続可能な発展に向けた支援
 - A. 気候変動と環境保護への支援
 - B. インフラ開発に向けた支援

C. 地域災害リスク削減と災害管理への支援

2. 人材交流の促進

3. 民主化と平和構築に向けた支援

2011年11月の外務省による報告¹¹³では、日本によって支援されているプロジェクトは下記に要約されている通りである。

目標 1.A 気候変動と環境保護への支援が計画され、現行のODA借款での援助は15億7800万米ドル、無償資金協力は5500万米ドルである。この援助は、広く下記の重要な分野へと配分されている：

- 電力開発と供給、クリーンエネルギーと省エネを含むエネルギープロジェクトには、11億7200万米ドルのODA借款、および3600万米ドルの供与が行われた。
- 生物多様性と森林保護プロジェクトには、2億2900万米ドルのODA借款と、600万米ドルの供与が行われた。
- 洪水調査、水供給インフラとサービスを含む水プロジェクトには1億7600万米ドルの借款が割り当てられた。

目標 1.B 道路、鉄道、エネルギー施設を含むインフラ開発への援助には、41億9200万米ドルのODA借款と1億3100万米ドルの供与が割り当てられ、地域の連結性を促進することを目指す。

目標 1.C 地域災害リスクの削減と災害管理への支援基金は、3億7200万米ドルのODA借款と、7800万米ドルの供与からなる。これは災害に強いコミュニティの建設と、災害管理と対応において地域協力を強めていくことを目的としている。これらの基金のうち、5300万米ドルのODA借款と、1100万米ドルの供与は、水に特化したプロジェクトに割り当てられる。

目標 2. 人材交流の促進は、団結と将来ビジョン共有の促進を目指すものである。日本とSAARCメンバー諸国との若手交流プログラムが導入されている。

目標 3. 民主化と平和構築へ向けた支援では、平和構築、ガバナンス、安全保障とその他のプロジェクトを通じて、これらの目標へ向けてSAARCメンバー諸国を支援している。原則的に受益者はアフガニスタンであり、パキスタン、ネパール、スリランカ、ブータンもまた支援を受けている。

2011年11月の報告にもあるように、南アジアに対する150億米ドルの支援計画のもとで、60億米ドルを超えるODA借款と2億6400万米ドルの無償資金協力を含め、日本は多くの詳細なプロジェクトに対して支援をしてきた。資金供与と貸与の大部分は、輸送インフラとエネルギープロジェクトに充てられてきた。日本の支援は多額であり、当該地域に

対して重大な関心を示していることが窺える。

SAARC に対する現在の日本の援助は多分野にわたっており、また、当地域には多くの競合する資金の需要がある。現行の資金援助は輸送インフラとエネルギーを基本としたプロジェクトに焦点が置かれており、これらは地域の経済や雇用情勢の改善にとって重要な分野であるが、今後は、水資源をベースとしたプロジェクトへの支援を拡大させ、南アジアにおける水資源の安定性と協力を促進していくことを個別の目標として掲げていくことが望まれる。

現在、日本からの支援による水管理プロジェクトは、その新しい目標へと吸収されてよいだろう。日本が提供出来るであろう資源を最善の方向へ持っていくために、南アジアの水資源管理プロジェクトのさらなる調査が必要である。政策面で提言しうる例としては、以下の項目が挙げられる。

- インドでは、水資源インフラへの投資と、ガバナンスの改善が必要である。水漏れによる損失に対処するだけで、供給可能量を大幅に増やすことが可能である¹¹⁴。
- パキスタンには十分な水を貯蔵する能力が無く、これは明らかに取り組むべき課題である¹¹⁵。
- 地下水は、広く過剰使用され、環境悪化が原因で多くの地域で汚染されている。地下水資源の塩度は南アジアで深刻な問題となりつつある¹¹⁶。
- 水と肥料を大量に使用する農業慣行、排水の管理が行き届いていないこと、自然保護に対する認識不足は、改善の余地がある分野である。
- 地域協力においては、データ、知識、責任の共有に向けて積極的に行動していくことが必要である¹¹⁷。

南アジアにおける水資源の安定性と協力を促進していくという目標に対して、追加的なプロジェクトを行っていくにあたっては、資金援助の手法においていくつか選択肢がある。

- 個々の重要なプロジェクトについては、二国間の調整により、日本から直接資金を支援する。
- 資金は、SAARC により運営される現行および将来のプロジェクトに割り当てられる。この支援にはプロジェクトの早期実現を支援するための管理上の資源も含まれている。
- 当地域で現在同じ目的で活動しているその他の団体と関わりを持っていく。

南アジアにおける水管理を既にターゲットとしている団体の例は South Asia Water Initiative (以下、SAWI) である。2008 年に世界銀行の団体として設立され、南アジア地域での水資源管理と国境を跨ぐ水資源に対する協力を促進することを目標としている¹¹⁸。SAWI は新しい知識の創出、対話促進、行動と投資の促進によって、これらの目標を達成しようと努

めている¹¹⁹。中長期的な目標を掲げて、世界銀行によるマネージメントと当該分野の専門家を活用している。SAWI は世界銀行によって出資され、イギリス、オーストラリア、ノルウェーを含む数カ国の支援を受けている。まだ日の浅いプログラムで、比較的小規模な財源で行っており、2011年までの出資金はわずか1000万ドル以下である¹²⁰。

現在の日本の南アジア地域に対する力強い支援に見合った形で、日本からSAWIに支援が行われれば、SAWIのプロジェクト遂行能力は大いに改善されるであろう。選択される援助手法がどうであれ、水管理と協力に対する日本の貢献は、地域統合の将来展望を進展させ、物質的には南アジアの何百万もの人々の生活とその将来性を改善させることであろう。

日本は既に、輸送インフラへのODAを通じ、地域内貿易の促進のために、大規模な援助を提供している。現行の支援と並んで、貿易円滑化措置をさらに拡大させる方向で援助ができればよいだろう。この分野で改善が見られるような日本の支援が得られれば、地域統合の促進において重要な糧となるだろう¹²¹。

日本はODAを、地域連結性の促進を目指した道路、鉄道、エネルギーにおけるインフラ開発プロジェクトのために供給している。この支援を実質的に拡大させ、国境付近で倉庫、検査施設、駐車場を十分に確保していくことが求められる。税関手続きは対処がより難しい分野であるが、それでもなお、地域間の情報共有と協調的な行動を支援するプロジェクトによって改善が可能である。車両の通過に関しては、地域を跨ぐ基準が策定されるよう推進していく援助が有効である。

7. おわりに

南アジアは、全世界の5分の1の人口を抱えていると共に、世界で最も貧困レベルが高い地域である。またその一方で、大きな経済成長の可能性も秘めている。南アジア地域統合の潜在的利益は計り知れないが、その成功には多くの障害が横たわっている。

SAARCは地域統合と協調的な発展を追求する目的で創設された。2つの鍵となる協定はSAPTAとSAFTAで、両者共、域内貿易と経済協力を促進するものである。SAPTA協定では原則として品目ごとにメンバー間で特惠関税の取り決めを行った。貿易障壁の削減を通してメンバー諸国間での貿易の自由化と財の自由な動きを達成していくとして、SAFTAは2006年にSAPTAへと引き継がれた。

SAARCのもとでは多くの協定が結ばれ素晴らしい目的が謳われたが、具体的な成果を生み出すことはあまりなかった。SAPTAの貿易自由化に向けた10年におよぶ協議のもとでは、実質的に南アジアの域内貿易を増やすことはできず、同様にSAFTAの成果も今日まで目立ったものはない。南アジアはその他のエリアにある地域協力に比べ、統合の程度

は不十分なままである。この地域の不均衡な構造と政治的に困難な情勢を鑑みると、これは恐らく驚くことではないだろう。しかし、それでも、南アジアの首脳間の対話と協議を行うための価値ある場を、SAARC が提供していることは確かである。

SAARC が相対的に有効に機能しない要因は、地域の軋轢から地政学的あるいは制度的な問題まで、幅広い範囲にわたる。インド・パキスタン間の張り詰めた関係と同様に、この地域におけるインドの優位性は緊張を高めている。水とエネルギー資源の問題は、経済成長を直接妨げ地域的な摩擦を作り出す要因となっている。SAARC が活動的でないことと、組織と活動の範囲が広すぎることも大きな問題である。関税障壁は多少削減された一方、長いセンシティブリストは手つかずのままである。また、非関税障壁は貿易と地域統合を阻む大きな障害となっている。

南アジアで統合を成功させるには、これらの問題を解決する動きが必要である。特に、SAARC メンバー諸国内での地域的な緊張と不信感を除去することに焦点を当てる必要があり、そうすることで、より協力的な関係を構築することが可能となるであろう。インドはこれらの努力に向けて指導的役割を果たす立場にある。

南アジアの統合の達成に向けた地域外の援助国からの支援は、問題が政治的であるがゆえに複雑になりうる。そのため、地域紛争の緩和を手助けするような係争のない実用的な援助が適切であろう。エネルギーと水資源管理の改善、あるいは高価な貿易関連コストへの対処などが、可能性のある有益なプロジェクトの例である。

日本は既に SAARC に対して、日本・SAARC 基金を通じ、地域の発展と安定を支援するため、広範囲にわたる援助を行っている。150 億米ドルを超える支援は広い分野で実施または計画され、基金は主に輸送とエネルギー部門に充てられてきた。

本稿では、その援助の焦点を水資源にもあて、そのための独自の目標を掲げることを提案したい。水資源管理は、地域の経済発展、地域環境の維持、人間開発にとって極めて重要である。また、物流や国境インフラに関するプロジェクトを含む貿易円滑化策を促進していくことや、情報共有や標準化に関するプロジェクトを通して関税手続きの効率化を支援することも、今後の日本の援助のあり方として有効であると考ええる。

—注—

¹ The World Bank, “The World Bank | South Asia.”

² Ibid.

³ Dash, “The Political Economy of Regional Cooperation in South Asia,” 1.

⁴ Kumar, R and Singh, M, India’s Role in South Asia Trade and Investment Integration.

- 5 Dash, 1.
6 Dash, 2.
7 Khan, S et al., *Regional Integration, Trade and Conflict in South Asia*, 11.
8 MOFA, “Efforts to Solve Global Economic Issues and Other Multilateral Problems.”
9 Dash, 2.
10 Dash, 3.
11 LDCs とは国連により定義された国であり、南アジアではアフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブとネパールが含まれる。United Nations, “LDC Regional Membership.”
12 SAARC Secretary General quoted in the *Bhutan Observer*, July 2011, “Saarc Visa Exemption Scheme Expanded.”
13 *The Economist*, “SAARC Chasm.”
14 Pattanaik, S, *Making Sense of Regional Cooperation: SAARC at Twenty*.
15 SAARC: An Impasse?.
16 Ahmed, S and Ghani, E, “South Asia’s Growth and Regional Integration An Overview,” 4.
17 Delinić, T, *SAARC-25 Years of Regional Integration in South Asia*, 7.
18 *Ibid.*, 7.
19 Choquier, *ASEAN and SAARC: Resolving Intra Regional Disputes*.
20 Spachis, “SAARC: Towards Meaningful Cooperation.”
21 The Commonwealth, “Commonwealth Secretariat - Commonwealth Supports First South Asian Economic Summit.”
22 Baysan, T, Panagariya, A, and Pitigala, N, *Preferential Trading in South Asia*, 8.
23 Weerakoon, D, *Globalization and South Asia: The Role of Foreign Direct Investment in Economic Development*, 13,14.
24 Bhattacharyay, *Benefits and Challenges of Integrating South and Southeast Asia*, 10.
25 De, Chaturvedi, S, and Khan, A, “Transit and Border Trade Barriers in South Asia,” 140.
26 ADB/AusAID, *Study on Intra-regional Trade and Investment in South Asia*.
27 Taylor, B and Wilson, J, *As SAFTA Gains New Momentum, Trade Facilitation Should Remain Key Priority*.
28 Roy, J and Banerjee, P, “Connecting South Asia The Centrality of Trade Facilitation for Regional Economic Integration.”
29 Asian Development Bank / Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, *Key Proposals for Harnessing Business Opportunities in South Asia*, 6–7.
30 *Ibid.*, 4.
31 United Nations, *South-South Trade in Asia: The Role of Regional Trade Agreements*, 69.
32 SAARC, “Agreement on South Asian Free Trade Area (SAFTA),” Article 7.
33 Asian Development Bank / Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, *Key Proposals for Harnessing Business Opportunities in South Asia*, 4.
34 SAARC, “SAARC Visa Exemption Scheme.”
35 Asian Development Bank / Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, *Key Proposals for Harnessing Business Opportunities in South Asia*, 4.
36 Reuters, “Pakistan and India Agree to Ease Visa Restrictions.”
37 Alwis, R, “Promoting Tourism in South Asia,” 273.
38 Pattanaik, S, “Indo-Pak Relations and the SAARC Summits,” 427.
39 Sabur, A and Kabir, M, *Conflict Management and Sub-regional Co-operation in ASEAN: Relevance for SAARC*, 79.
40 Thapar, R, “SAARC: Ineffective in Promoting Economic Cooperation in South Asia.”
41 The World Bank, “The World Bank | South Asia.”
42 Delinić, 10.
43 *Ibid.*
44 Thapar, R, “SAARC: Ineffective in Promoting Economic Cooperation in South Asia.”
45 Sridharan, *Regional Organisations And Conflict Management: Comparing ASEAN and SAARC*, 9.
46 Bhasin, *India’s Role in South Asia – Perceived Hegemony or Reluctant Leadership?*, Vol. 3 No. 4:2.
47 Reuters, “FEATURE-Thirsty South Asia’s River Rifts Threaten Water Wars.”
48 United Nations, “United Nations Military Observer Group in India and Pakistan (UNMOGIP).”
49 Pattanaik, S, “Indo-Pak Relations and the SAARC Summits,” 429.

- 50 Behera, *SAARC & Beyond - Civil Society and Regional Integration in South Asia*, 1.
51 Sankar, *Regional Energy Security For South Asia*, ES1–2, ES4.
52 “Energy and Security in South Asia: Cooperation or Conflict?”
53 The World Bank, “Energy - Electricity Access.”
54 Sankar, 2–1.
55 The World Bank, “The World Bank | South Asia.”
56 “Energy and Security in South Asia: Cooperation or Conflict?”
57 USAID, *South Asian Free Trade Area: Opportunities and Challenges*, 24.
58 Singh, R, *Trans-Boundary Water Politics and Conflicts In South Asia: Towards “Water for Peace.”* 10.
59 Ibid.
60 Langton, N and Prasai, S, “Will Conflicts over Water Scarcity Shape South Asia’s Future?”
61 Asian Development Bank, “Water for All: The Water Policy of the Asian Development Bank,” 3.
62 Langton, N and Prasai, S, “Will Conflicts over Water Scarcity Shape South Asia’s Future?”
63 The World Bank, *Pakistan Strategic Country Environmental Assessment*, 7.
64 WWF, *Pakistan’s Waters at Risk*.
65 Wheeler, W, “India and Pakistan at Odds Over Shrinking Indus River.”
66 Ibid.
67 Ibid.
68 ADB/AusAID, *Study on Intra-regional Trade and Investment in South Asia*, 83.
69 Wilson, J, “Water Security in South Asia: Issues and Policy Recommendations.”
70 Delinić, 11.
71 Abdin, “Commitments of SAARC Summits--an Analysis.”
72 Delinić, 14.
73 Ibid., 17.
74 Ahmed, S and Ghani, E, “Growth and Regional Integration,” 31.
75 Taneja, N et al., *Enhancing Intra-SAARC Trade: Pruning India’s Sensitive List Under SAFTA*, 1.
76 Ibid.
77 Delinić, 15.
78 Wilson and Ostuki, “Cutting Trade Costs and Improved Business Facilitation in South Asia,” 240.
79 ADB/AusAID, *Study on Intra-regional Trade and Investment in South Asia*.
80 Commonwealth Business Council, “South Asia Trade and Investment Network.”
81 Asian Development Bank / Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, *Key Proposals for Harnessing Business Opportunities in South Asia*, 14.
82 UNCTAD, *World Investment Report 2012*, 47.
83 Ghani, E, “Is Service-led Growth a Miracle for South Asia?,” 95.
84 Cecot, C, “Telecommunication Development and the Role of Regional Cooperation,” 335.
85 Harshe, R, “South Asian Regional Co-operation: Problems and Prospects,” 1100.
86 BBC News, “Pakistan Grants India ‘Most Favoured’ Trade Status.”
87 Kumar, R and Singh, M, *India’s Role in South Asia Trade and Investment Integration*.
88 Babel, M and Wahid, S, *Freshwater Under Threat: South Asia*, 9.
89 Langton, N and Prasai, S, “Will Conflicts over Water Scarcity Shape South Asia’s Future?”
90 Wilson, J, “Water Security in South Asia: Issues and Policy Recommendations,” 1.
91 The Economist, “South Asia’s Water: Unquenchable Thirst | The Economist.”
92 Asian Development Bank, *Climate Change in South Asia: Strong Responses for Building a Sustainable Future*.
93 Langton, N and Prasai, S, “Will Conflicts over Water Scarcity Shape South Asia’s Future?”
94 UNDESA, “International Decade for Action ‘Water for Life’ 2005-2015. Focus Areas: Water Scarcity.”
95 Ministry of Water Resources, “Press Information Bureau, Government of India.”
96 Ahmed, S et al., *Meeting Future Food Demands of Pakistan Under Scarce Water Situations*, 239.
97 Ahmed, S and Ghani, E, “South Asia’s Growth and Regional Integration An Overview,” 6.
98 ADB/AusAID, *Study on Intra-regional Trade and Investment in South Asia*.
99 Tewari, M, *Deepening Intra-regional Trade and Investment in South Asia The Case of the Textiles and Clothing Industry*, 5–8.
100 ADB, “South Asia Subregional Economic Cooperation.”
101 Ahluwalia, I.J., “Economic Cooperation in South Asia,” 321.

- 102 BIMSTEC, “Bimstec Energy Centre.”
- 103 Kumar, R and Singh, M, 26.
- 104 Nag, B and De, D, *Asian Integration Process and BIMSTEC*, 8.
- 105 MOFA, “Regional Diplomacy.”
- 106 MOFA, “The South Asian Association for Regional Cooperation (SAARC) and Japan.”
- 107 MOFA, *Japan’s ODA White Paper 2008 “Japan’s International Cooperation,”* 105.
- 108 Moni, M, *Japan and South Asia: Toward a Strengthened Economic Cooperation*, 5.
- 109 Japan Bank for International Cooperation, *Survey Report on Overseas Business Operations by Japanese Manufacturing Companies.*
- 110 “IBEF:: India and Japan.”
- 111 MOFA, *Japan’s ODA White Paper 2008 “Japan’s International Cooperation,”* 105.
- 112 MOFA, *Japan’s Support to SAARC*, 2.
- 113 MOFA, *Japan’s Support to SAARC.*
- 114 Misra, S and Kingdom, W, *INDIA: Improving Urban Water Supply and Sanitation Services.*
- 115 Ahmed, S et al., *Meeting Future Food Demands of Pakistan Under Scarce Water Situations*, 246.
- 116 Wilson, J, “Water Security in South Asia: Issues and Policy Recommendations,” 4–5.
- 117 Wilson, J, “Water Security in South Asia: Issues and Policy Recommendations.”
- 118 World Bank, *Annual Report 2011: The South Asia Water Initiative*, 7.
- 119 Ibid., 8.
- 120 Ibid., 54.
- 121 Asian Development Bank / Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, *Key Proposals for Harnessing Business Opportunities in South Asia*, 6–7, 11.

参考文献

- Abdin, Md. Joynal, *Commitments of SAARC Summits--an Analysis* (Dhaka, Bangladesh 2010).
- ADB, *South Asia Subregional Economic Cooperation*<<http://www.adb.org/countries/subregional-programs/sasec>>
- ADB/AusAID, *Study on Intraregional Trade and Investment in South Asia* (2009).
- Ahluwalia, I. J, “Economic Cooperation in South Asia,” *Development Assistance Strategies in the 21st Century: Global and Regional Issues*, Indian Council for Research on International Economic Relations / Japan Bank for International Cooperation, 2002.<<http://www.jbic.go.jp/en/research/report/research-paper/>>
- Ahmed, S, Alam, N, Shakoor, A, and Ullah, M, “Meeting Future Food Demands of Pakistan under Scarce Water Situations,” Paper No. 667, Pakistan Engineering Congress, *70th Annual Session Proceedings, 2007.*
<<http://pecongress.org.pk/images/upload/books/Paper667.pdf>>
- Ahmed, S, and Ghani, E, “Growth and Regional Integration,” *South Asia Growth and Regional Integration*, New Delhi: The International Bank for Reconstruction and Development / The World Bank, MacMillan India Ltd, (2007).
- , “South Asia’s Growth and Regional Integration An Overview,” *South Asia Growth and Regional Integration*, New Delhi: The International Bank for Reconstruction and Development / The World Bank, MacMillan India Ltd,(2007).
- Alwis, R, “Promoting Tourism in South Asia,” *Promoting Economic Cooperation in South Asia: Beyond SAFTA*, SAGE Publications India Pvt Ltd (2010).
- Asian Development Bank / Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, *Key Proposals for Harnessing Business Opportunities in South Asia* (2010).
- Asian Development Bank, *Climate Change in South Asia: Strong Responses for Building a Sustainable Future*(Asian Development Bank, 2010).
- , *Water for All: The Water Policy of the Asian Development Bank* (Asian Development Bank, 2001).
- Babel, M, and Wahid, S, *Freshwater Under Threat: South Asia* (UNEP, Asian Institute of Technology, 2008).
- Baysan, T, Panagariya, A, and Pitigala, N, Preferential Trading in South Asia. *World Bank Policy Research Working Paper* 3813, 2006.
- BBC News, “Pakistan Grants India ‘Most Favoured’ Trade Status,” *News Asia*,
<<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-15553636>>

- Behera, N, "SAARC & Beyond - Civil Society and Regional Integration in South Asia," *SACEPS Paper* 19. Kathmandu, Nepal: South Asia Centre for Policy Studies (SACEPS)(2008).
- Bhasin, M, "India's Role in South Asia – Perceived Hegemony or Reluctant Leadership?" *Indian Foreign Affairs Journal*, Vol. 3, No. 4(2008).
- Bhattacharyay, B, "Benefits and Challenges of Integrating South and Southeast Asia," *CESIFO Working Paper* No. 3819, CESIFO / Asian Development Bank, 2012. <<http://www.CESifo-group.org/wp>>
- BIMSTEC, *Bimstec Energy Centre*. <http://www.bimstecenergycentre.org/about_bimstec.html>
- Brookings Institution, "Energy and Security in South Asia: Cooperation or Conflict?," November 2011. <<http://www.brookings.edu/events/2011/11/02-south-asia-energy>>
- Cecot, C, "Telecommunication Development and the Role of Regional Cooperation," *The Service Revolution in South Asia*, World Bank: Oxford University Press, New Delhi(2010).
- Choquier, C, "ASEAN and SAARC: Resolving Intra Regional Disputes," *Southeast Asia - Articles # 3135*. Institute of Peace and Conflict Studies, 2010. <<http://www.ipcs.org/article/southeast-asia/asean-and-saarc-resolving-intra-regional-disputes-3135.html>>
- Commonwealth Business Council, South Asia Trade and Investment Network. <<http://www.cbcbglobal.org/programmes/details/south-asia-trade-and-investment-network-satin>>
- Dash, Kishore C, "The Political Economy of Regional Cooperation in South Asia," *Pacific Affairs*, Vol. 69, No.2(Summer 1996).
- De, P, Chaturvedi, S, and Khan, A, "Transit and Border Trade Barriers in South Asia," *Promoting Economic Cooperation in South Asia: Beyond SAFTA*, SAGE Publications India Pvt Ltd(2010).
- Delinić, T, "SAARC-25 Years of Regional Integration in South Asia," *KAS International Reports*(2011).
- Ghani, E, "Is Service-led Growth a Miracle for South Asia?" *The Service Revolution In South Asia*, World Bank: Oxford University Press, New Delhi(2010).
- Harshe, R, "South Asian Regional Co-operation: Problems and Prospects," *Economic and Political Weekly* Vol. 34, No. 19(1999), pp. 1100-1105.
- IBEF:: India and Japan<http://www.ibef.org/Archives/ViewArticles.aspx?art_id=26337&cat_id=556>
- Japan Bank for International Cooperation, *Survey Report on Overseas Business Operations by Japanese Manufacturing Companies*(December 2010).
- Khan, S, Shaheen, F, Yusuf, M, and Tanveer, A, *Regional Integration, Trade and Conflict in South Asia*(Islamabad, Pakistan: Sustainable Development Policy Institute, 2007).
- Kumar, R, and Singh, M, "India's Role in South Asia Trade and Investment Integration," *ADB Working Paper Series on Regional Economic Integration*, No. 32, Asian Development Bank(2009).
- Langton, N, and Prasai, S, "Will Conflicts over Water Scarcity Shape South Asia's Future?" *Centre for Strategic and International Studies*, Vol. 2, Issue 1(2012).
- Ministry of Water Resources, Press Information Bureau, Government of India, 2012. <<http://pib.nic.in/newsite/erelease.aspx?relid=82676>>
- Misra, S, and Kingdom, W, *INDIA: Improving Urban Water Supply and Sanitation Services*(The World Bank / Ministry of Urban Development, Government of India, 2012).
- MOFA, "Efforts to Solve Global Economic Issues and Other Multilateral Problems," *Diplomatic Bluebook 1981 Edition*, 1981. <<http://www.mofa.go.jp/policy/other/bluebook/1981/1981-contents.html>>
- , "Japan's International Cooperation," *Japan's ODA White Paper 2008*, 2009, <<http://www.mofa.go.jp/policy/oda/white/2008/html/oda2008/html/honpen/hp302030200.htm>>
- , *Japan's Support to SAARC*, 2011.<<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/saarc/pdfs/support1111.pdf>>
- , "Regional Diplomacy," *Diplomatic Bluebook 2010 (Summary)*, 2010. <http://www.mofa.go.jp/policy/other/bluebook/2010/html/h2/h2_01.html>
- , "The South Asian Association for Regional Cooperation (SAARC) and Japan," June 2009. <<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/saarc/overview.html>>
- Moni, M, *Japan and South Asia: Toward a Strengthened Economic Cooperation*(Dhaka, Bangladesh: University of Dhaka, 2007).
- Nag, B, and De, D, *Asian Integration Process and BIMSTEC*(Kolkata: Centre for Studies in International Relations and Development, 2007)
- Pattanaik, S, "Indo-Pak Relations and the SAARC Summits," Institute for Defense Studies and Analyses, *Strategic Analysis*, Vol. 28, No. 3(2004).
- , "Making Sense of Regional Cooperation: SAARC at Twenty," Institute for Defense Studies and Analyses,

- Strategic Analysis*, Vol. 30, No. 1(2006).
- Reuters, “FEATURE-Thirsty South Asia’s River Rifts Threaten Water Wars,” 2012.
<<http://af.reuters.com/article/energyOilNews/idAFL3E8I42PW20120723?pageNumber=1&virtualBrandChannel=0>>
- , “Pakistan and India Agree to Ease Visa Restrictions,” 2012.
<<http://in.mobile.reuters.com/article/southAsiaNews/idINDEE88705020120908>>
- Roy, J, and Banerjee, P, “Connecting South Asia The Centrality of Trade Facilitation for Regional Economic Integration,” *Promoting Economic Cooperation in South Asia: Beyond SAFTA*, SAGE Publications India Pvt Ltd(2010).
- SAARC, “Agreement on South Asian Free Trade Area (SAFTA),” 12th SAARC summit, Islamabad, Pakistan(2004).
- , “SAARC Visa Exemption Scheme,” 2009.<<http://www.saarc-sec.org/SAARC-Visa-Exemption-Scheme/100>>.
- SAARC Secretary General, “Saarc Visa Exemption Scheme Expanded,” *Bhutan Observer*(July 22, 2011).
<<http://www.bhutanobserver.bt/saarc-visa-exemption-scheme-expanded>>
- SAARC: An Impasse?.
- Sabur, A, and Kabir, M, *Conflict Management and Sub-regional Co-operation in ASEAN: Relevance for SAARC*(Academic Press and Publishers in Association with Bangladesh Institute of International and Strategic Studies, 2000).
- Sankar, T. et al, *Regional Energy Security for South Asia*(South Asia Initiative for Energy – USAID).
- Singh, R, *Trans-Boundary Water Politics and Conflicts in South Asia: Towards “Water for Peace”*(Centre for Democracy and Social Action).
- Spachis, Alexander, “SAARC: Towards Meaningful Cooperation,” presented at the SAARC Regional Conference, Kathmandu, Nepal, March 12, 2012.
<http://www.eeas.europa.eu/delegations/nepal/documents/more_info/2012.03.28_en.pdf>
- Sridharan, K, “Regional Organisations and Conflict Management: Comparing ASEAN and SAARC,” *Regional and Global Axes of Conflict, Working Paper*, 33. National University of Singapore(2008).
- Taneja, N, Ray, S, Kaushal, N, and Chowdhury, D, “Enhancing Intra-SAARC Trade: Pruning India’s Sensitive List under SAFTA,” *Indian Council for Research on International Economic Relations, Working Paper*, 255(2011).
- Taylor, B, and Wilson, J, “As SAFTA Gains New Momentum, Trade Facilitation Should Remain Key Priority,” *Research at the World Bank*(April 2009).
- Tewari, M, “Deepening Intraregional Trade and Investment in South Asia - The Case of the Textiles and Clothing Industry,” *Indian Council for Research on International Economic Relations Working Paper*, No. 213(2008).
- Thapar, R, “SAARC: Ineffective in Promoting Economic Cooperation in South Asia,” *Stanford Journal of International Relations*(2006). <http://www.stanford.edu/group/sjir/7.1.03_thapar.html>
- The Commonwealth, Commonwealth Secretariat - Commonwealth Supports First South Asian Economic Summit(2008).<<http://www.thecommonwealth.org/news/34580/34581/182838/260808economicssummit.htm>>
- The Economist, SAARC Chasm(Asia View, July 30, 2008).<<http://www.economist.com/node/11832475>>
- , “South Asia’s Water: Unquenchable Thirst | The Economist,”< <http://www.economist.com/node/21538687>>
- The World Bank, Energy - Electricity Access,
<<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTENERGY2/0,,contentMDK:22505004~menuPK:4140673~pagePK:148956~piPK:216618~theSitePK:4114200,00.html>>
- , Pakistan Strategic Country Environmental Assessment, Vol. 1: Main Report. South Asia Environment and Social Development Unit(2006).
- , “The World Bank | South Asia,”
<<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/SOUTHASIAEXT/0,,pagePK:158889~piPK:146815~theSitePK:223547,00.html>>
- UNCTAD, World Investment Report 2012, United Nations(2012).
- UNDESA, “International Decade for Action ‘Water for Life’ 2005-2015,” Focus Areas: Water Scarcity.
<<http://www.un.org/waterforlifedecade/scarcity.shtml>>
- United Nations, “LDC Regional Membership,” UN Office of the High Representative, 2012.
<<http://www.un.org/special-rep/ohrlls/ldc/regionalmembership.htm>>
- , *South-South Trade in Asia: The Role of Regional Trade Agreements*, UNCTAD / JETRO, 2008.
- , “United Nations Military Observer Group in India and Pakistan (UNMOGIP) 2012.
<<http://www.un.org/en/peacekeeping/missions/unmogip>>

USAID, South Asian Free Trade Area: Opportunities and Challenges, 2005.

<http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PNADE563.pdf>

Weerakoon, D, “Globalization and South Asia: The Role of Foreign Direct Investment in Economic Development,” South Asian Survey, Vol. 11, No. 1(2004).

Wheeler, W, “India and Pakistan at Odds over Shrinking Indus River,” National Geographic.

<<http://news.nationalgeographic.com/news/2011/10/111012-india-pakistan-indus-river-water>>

Wilson, J, and T Ostuki, “Cutting Trade Costs and Improved Business Facilitation in South Asia,” *South Asia Growth and Regional Integration*, New Delhi: The International Bank for Reconstruction and Development / The World Bank, MacMillan India Ltd(2007).

Wilson, J, “Water Security in South Asia: Issues and Policy Recommendations,” Observer Research Foundation, *ORF Issue Brief*, No. 26(February 2011).

World Bank, *Annual Report 2011: The South Asia Water Initiative (SAWI)*, 2011.

WWF, *Pakistan's Waters at Risk: Water and Health Related Issues in Pakistan and Key Recommendations*(World Wildlife Fund, February 2007).